

分科会のまとめ 小学校 国語

授業者	海田東小学校 6年 東 真由美
指導助言者	広島県西部教育事務所 指導主事 中塩 曜子 様
司会者	海田東小学校 吉岡 朋美
記録者	海田東小学校 瀬戸口 純子

1 協議内容（○成果・●課題）

① 児童生徒の主体的・協働的に学ぼうとする姿が見られたか

- 単元の流れが掲示され、全体の見通しがもてる。
- 付けたい力が明確に示されていることで話し合いが活発になっていた。
- 少人数のグループづくりが、支援の必要な児童にも有効であった。
- 教材がしっかりと読み込まれ、一人一人が自分の考えをもって主体的に学ぶことができていた。
- もっと学級全体で考える場を増やしたほうが、「学級で考えたい問い」につながるのではないか。

② 児童生徒が自分の考えを深めるための指導の工夫がされていたか

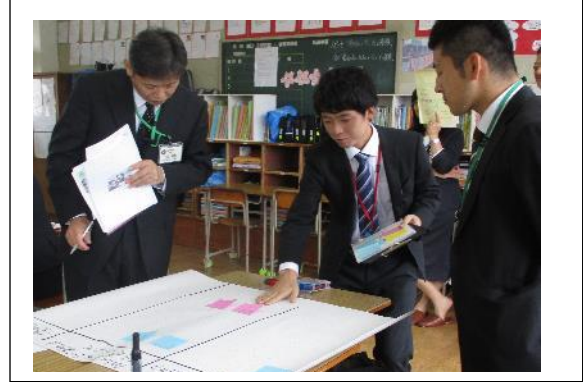
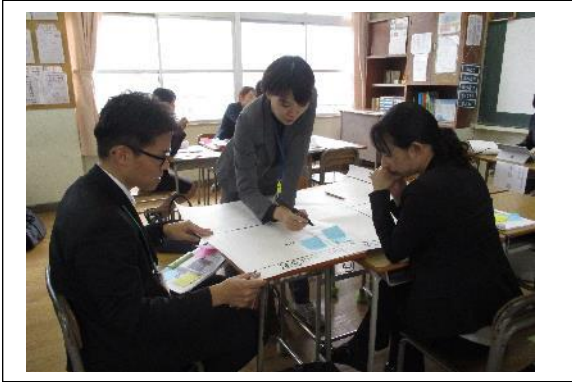
- 3人グループでの話し合いは、発言しやすく活発に意見を出し合っていた。また、話し合いの時間が十分確保されていたので、深まっていた。
- グループ内では「問い」を選んだ理由を考えることで意見に深まりが見られた。
- 教材文が1枚にまとめられており、全体をつかむことができていた。
- 先生が「無理やり」という言葉にこだわって問いを作る場面があり、一つの言葉の重要性を示していたのは、キャッチコピーにもつながるのでよかった。
- 板書の情報が多かった。
- 本時の「問い」は「重要な問い」にむいていたか。
 - ・ 全体での発表の時に選んだ理由をしっかりと発表することで、「重要な問い」につながる「問い」を意識できたのではないか。
 - ・ 「重要な問い」に向けた話し合いになるよう「問い」を選択するための視点を示すとよいのではないか。
- 本時のまとめでは、全体に出されていた「問い」以外も取り入れたので、次はどのように進めていくのか疑問が残った。
 - 本時の学びの中から個々が考えた「学級で考えたい問い」をうまく取り入れ、つなげていきながら今後の授業をつくっていく。

③ 児童生徒が安心して学習できる環境づくりや人間関係づくりはどうであったか

- 授業の前後で姿勢・身だしなみを意識し、指導されていた。
- あいさつや音読の声がしっかりと出ており、先生も肯定的評価をされていた。
- 児童のつぶやきが授業に生かされ、肯定的な評価により安心して発言することができていた。

- 机間指導によりグループに合わせた声かけや指導，児童同士のつながりを作るような働きかけが効果的であった。
- 全体での思考の場では，個のつぶやきではなくグループで話し合ったことを交流する場を設定してもよかった。

※ 注目する習慣，友達同士の言葉づかい，敬語の使い方など，小・中9年間での指導が大切。



2 指導・助言

本日の授業について

- ・ 児童の実態を踏まえた深い教材研究がされていた。
- ・ 児童から出されるであろう「問い」を授業者自身が考えられている。
- ・ ゴールを明確にした単元構成ができている。児童の実態を踏まえて学習内容考え，弱い部分を補いながら進められている。
- ・ 児童に「問い」を作らせる活動を組むことでそれぞれが主体的に取り組めるものになっていた。
- ・ よく考えられた3人グループ編成だからこそ，めあてに迫る話し合いになっていた。それぞれの表現の仕方でも主体的に参加できていた。
- ・ 深い教材研究ができているからこそ，児童の思考をしっかり把握し，授業の流れの中でうまく生かすことができていた。
- ・ グループごとの「問い」の提示の際，場面の割り当てがあつたため，班での話し合いが生かしきれなかった。
- ・ 『「重要な問い」を解決するために「学級で考えたい問い」はどれか』をグループで発表することで「問い」が絞られてくるのではないかと思うので，最後まで主体的に活動させてもよかった。

今後に向けて

- ・ どの教科でも，1回の授業ですべての学びが実現できるものではないので，単元・題材のまとまりの中で単元計画をしっかりと立てて組み立てることでねらいを達成できるようにする。
- ・ 指導事項については，低学年・中学年・高学年・中学校へのつながりを大切にして見通しをもって押さえていく。弱い部分は前へ戻って押さえることも必要である。
- ・ カリキュラムマネジメントについて
教科横断的な視点を持ち，児童の課題から教材を決める。指導事項を児童の実態を踏まえて分析し，教科のつながりを考えながら効果的にねらいを達成していくよう組み合わせしていく事が必要になる。